

節分の日が動き出す

豆まきなどの行事でおなじみの節分，節分はいつかと聞かれたら2月3日と答える人も多いだろう。しかし，この日付は固定ではなく，令和3年(2021)には2月2日となる。3日でなくなるのは昭和59年(1984)2月4日以来37年ぶり，2日になるのは明治30年(1897)2月2日以来124年ぶりのことである。どうしてこのようになるのか，簡単にまとめておこう。

節分は季節を分けるという意味の雑節で，本来は各季節の始まりである立春・立夏・立秋・立冬の前日それぞれを指すはずだが，そのうち立春の前日だけが残ったものとされている¹。つまり，立春が定まれば節分もその前日として定まるわけだ。

では立春はというと，春分や秋分と同じく二十四節気の1つであるから，2012年のトピックスで説明した秋分と同じ理屈で同じように変動する。すなわち，1年ごとでは1太陽年365.2422日と1年365日の差～約6時間ずつ遅くなる一方，うるう年には4年前より少し早くなる，というパターンだ(図1)。

こうして，しばらく2月4日の中に納まっていた立春の日が令和3年には2月3日へ移り，その前日たる節分も連動して2月2日へ移ったという次第である。

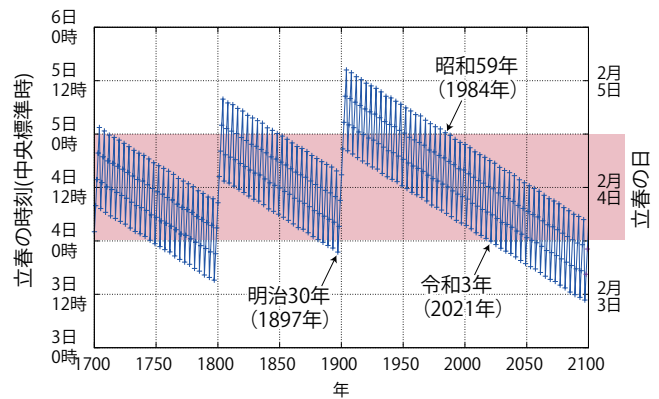


図 1: 立春の推移 (予測を含む)

¹これは立春が太陰太陽暦の正月に近く，年の変わり目の意味合いが強いからと言われる。